

リテラシー研究会の将来について

<歴史>

1993.10.より開始。当時の名称は識字学習会。

目的：識字の研究であり、のちに現在の名称であるリテラシー研究会となった。

活動内容：一年目 主に海外の文献を研究し、発表

二年目 引き続き文献研究とテーマ別の発表

三年目 テーマ別研究と識字の評価法について

大学院生を中心に始まったが、徐々に学部生の参加が増えていった。そこで、卒業研究の分析等も行なわれるようになった。また、文献研究に加え、カンボジアへのスタディーツアーという実践研究も行なわれるようになった。

世間へのアウトプットは、「なぜ識字か」（1996 年、2001 年）を作成することにより行なわれた。

千葉教授の ICU への就任以前は、授業等で識字を取り上げることはほとんどなかった。しかし、千葉教授の授業を通して、多くの学生が識字に興味を抱くようになった。当時、日本ユネスコ協会連盟は識字専門家を必要とし、その育成のために急遽 ICU の院生を集め、千葉教授が指導された。このように、学生の識字への興味、識字専門家の必要性、さらに学内にあるユネスコクラブが密接に関係しあって、リテラシー研究会は動いてきた。

<関係者（ステークホルダー分析）>

出席人数 31名 （OB/OG8名・千葉先生含む）

- ・ 「生」（現場）の開発に関心・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
名
- ・ 識字について基礎知識を得るため・・・・・・・・・・・・ 18
- ・ 学生に現場の知識をフィードバックする（OB/OG）・・・・ 4
- ・ 千葉先生の卒論生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- ・ 将来、開発分野で働きたい・・・・・・・・・・・・・・ 18
- ・ 開発と教育の分野で研究したい（進学・大学院）・・・・ 12
- ・ 教育開発分野の人とのネットワーク・・・・・・・・・・・・ 17
- ・ 千葉先生個人に興味・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- ・ 教育を国際的視野で考えたい・・・・・・・・・・・・・・ 17
- ・ 識字と教育について継続的に卒業後も学んでいきたい・・・・ 15
- ・ クラスと違ってより自主的に勉強したい・・・・・・・・・・ 6

・ 飲み会・交流・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
・ 出版関係（ベネッセ・公文等）・・・・・・・・	0
・ 千葉先生・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
・ 先生（中・高・大）・・・・・・・・・・	1

<リテ研存続を前提に具体案の検討・今後何をやりたいか>

- ・ 運営内容をシステマティックにする。しかし、人の出入りが激しいため、困難では。
- ・ これまで、システムの形式がフレキシブルだったために、長く続いたのではないかな。
アメーバ的な会
- ・ 千葉先生及び後任の先生がいなくてもリテ研を存続できるのか。
- ・ 核になる人（千葉先生・OB/OG）がいないと難しい。関心を持つ学生がいなくなる。
- ・ リテ研という場があれば、関心をもつ学生も出てくるのでは。
- ・ 回数などを減らすことで、濃度のある研究会にすべき
- ・ 濃度をこくすることは重要だが、週一回来ること、このような場自体が重要である
- ・ 濃度がこい＝意見を言える場・ディスカッションの場がある。レクチャーのみではよくない
- ・ 多くの現場知識をレクチャーからも学べるので、重要。核となる人がいないとディスカッションも進まない
- ・ リテ研がなくなることは、社会の損失である
- ・ 発足当時は、学生が主体的に発表をしていたが、現在では場当たりのためであり、先生からの指名によって発表が行なわれている。
- ・ 学生自身をもっと、何をしたいか、意志を発信すべきである
- ・ 昔はリテ研事務局（院生中心）があった

<千葉先生からの提案・メッセージ>

- ・ 学生自身がリテ研内容を企画してはどうか
- ・ OB/OG・院生・学部生・先生・外部の方が今後も参加できる会を続けてもらいたい
- ・ リテ研は最新情報を得ることのできる場である